

今月第8号は西中国部広島クラブの金子敏郎行ワイズにご登壇いただきます。



EMCは「E笑顔、Mみんなで、Cコミュニケーション」 (幸せのための10カ条より)

西中国部広島クラブ
金子 敏郎ワイズ

ローマ法王フランシスコが2014年、アルゼンチン誌のインタビューに答えて「幸せのための10カ条」を披露した。そのうちの印象的な1か条を以下にご紹介します。(CNN.co.jp データ)

●他人のために身を捧げる。

昨年スーパーボランティアとして大分の尾畠春夫さんが紹介された。彼の生き方は報道で何度も紹介されたので皆さんご存知でしょう。彼の生き方は法王の言われる第2条に言われることのまさに実践と言えるかと思います。

そして、私たちのクラブも国際的奉仕団体。奉仕を通じて幸せを感じようとする団体といえる。我がクラブで EMC といえば、大体会員数が減ってきているので増やしましょうが中心。それが重要課題であることは承知しているが、仲間を増やすには動機を共有する必要があると思う。会員は幸せを感じるためにクラブに参加していると思うのだが、それには「他人に身を捧げる」ことによって実現への道があるのではないか。

ワイズへの参加でウキウキ・ワクワクする部分を拡大し、それに共有して仲間を増やそう、という考え方をワイズメンズクラブ内で広げたいと思う。

さて、下の表は世界の奉仕団体で有名な3クラブの現状である。

(数字はウィキペディアなどによる)

		Y's	ロータリークラブ	ライオンズクラブ
設立年	世界	1922	1905	1917
	日本	1932	1921	1952
クラブ数	世界	1,500	33,000	47,390
	東日本	59	2,287	3,056
	西日本	83		
会員数	世界	21,000	1,200,000	1,425,000
	東日本	860	88,300	116,865
	西日本	1,523		
データ:		2018年	2014年	2017年

この数字の差はどこから来るのかを考えてみた。

奉仕した形が見えやすいのがロータリーとライオンズかと推察する。ワイズも私たちが支援するYMCA への奉仕活動が見えやすくなると、他のクラブに近づけるのかもしれない。

最後に、私は西中国部の EMC 主査を担当し、今期の活動方針を次のようにしている。

- (1)「入りたくなる Y's Men's Club」にする方法を部員全員で考える。
- (2)EMC を部員の身近なものにするため『E笑顔、M みんなで C コミュニケーション』を浸透させる。
- (3)例会を連絡会議から笑顔のコミュニケーションの場になるようにしたい。

まだ、活動方針を実現できていませんが、方向が見えればメンバーが何をしたいかも見えてきます。そして、自分で考えた奉仕活動を創造することができ、その活動の効果も実感でき参画の満足度も上がってくるに違いありません。

私たち独自の活動もしていけば、Y's Men's Club のブランド力の上昇にも役立ちます。

こうしたことで、これから新会員を誘うにしても、クラブの方向を語ることができ、勧誘がよりしやすくなり、メンバーの増加をはかれるのではないかと考えてやみません。

ちなみに10か条の残りの9か条は以下のようなものです。(1、3~10)

1. 人を裁かない

フランシスコ法王は同性愛に関して「自分は裁くべき立場にない」と発言している。キリストも「山上の説教」の中で、「人を裁いてはならない。自分が裁かれたくないのなら」(マタイ7章)と語った。

(2. 他人のために身を捧げる(原稿の中で取り上げた))

自分のお金や時間を必要としている人に与える。よどんだ水のようにじっとしてはならない。

3. 静かに行動する

20世紀初頭のアルゼンチンの作家リカルド・ギラルデスの小説から引用。人は若い頃は「あらゆる場所を急流のように流れる」が、年を取るにつれて「静かに穏やかに流れる川」になる。

4. 余暇を楽しむ

大量消費社会は耐え難い不安をもたらした。子どもたちと遊び、休息を取らなければならない。次の買収のことがかり考えて過ごしてはいけない。お金ではなく、時間をうまく使う。

5. 日曜日は家族のために

これは十戒の一節「安息日を設けよ」(出エジプト記20章)に由来する。週に1日は心の求めに応じ、瞑想(めいそう)、礼拝、家族との生活のために充てる。

6. 若者に仕事を

若者が健全であるためにはシンプルな仕事が欠かせない。フランシスコ法王はインタビューの中で雇用創出を環境破壊と結び付け、良い仕事がないのは、自分たち自身や地球に対する尊敬の念が欠けているからだ指摘した。生産的な良い労働にこそ価値があり、華やかな仕事に就く必要はない。金持ちになる必要はなく、普通でいい。幸福はそこにある。良い仕事を持ち、他人のために良い仕事を創出する。

7. 自然に敬意を払う

これは第6項にも関連する。フランシスコ法王は、「人類は無差別で横暴な自然利用によって自殺を図っているのか」と問いかける。多大な苦しみを伴わずに空気を汚したり、河川を汚染したり、樹木をむやみに伐採したりすることはできない。私たちの周りの不安や苦しみは、元をたどれば資源の不正利用に起因するのではないだろうか。私たちは自分の魂を浪費しているとも言える。

8. 悪いことはさっさと忘れる

自分を困らせたり苛立たせたりする相手について不平を言うてはいけない。そうしたことはできるだけ早く忘れ去る。人のことを悪く言う人は自分自身のみじめになり、私たちのみじめになる。

9. 信教を強要し過ぎない

改宗への勧誘は停滞を招くとフランススコ法王は説く。自分はキリスト教徒だと公言したとしても、人にはそれ以前に個々の世界観がある。この教えは一見、キリストが世界への布教を促した「大宣教命令」(マタイ28章)に矛盾するよう思えるが、フランススコ法王はこの活動を緩やかに解釈し、実例による教えの方をよしとした。それがキリストの真意だったのかもしれない。

10. 平和のために働く

フランススコ法王は法王に就任した日からこの教えを説いてきた。エルサレムに行ってユダヤ人とパレスチナ人の連帯を働きかけ、平和のために祈り、平和のために働いた。「平和をつくる者は幸いである」というキリストの言葉そのままに。

(西中国部 EMC 事業主査)

次号第9号は中西部大阪高槻クラブの和田早苗ワイズにご登壇いただきます。